

環境モデル都市 円卓会議 会議録

部 会 名	環境学習円卓会議			記録者	池崎（環モ推課）
開催回数	第5回				
開催日時	平成21年11月4日（水）19時00分～21時				
開催場所	あきば3階会議室				
出席者	所属	名前	所属	名前	
	推進委員	大嶽	相思社	高嶋	
	水俣自然学校	三村	教育旅行プランニング	吉永	
	環境センター	宇田津	ほっとはうす	加藤	
	環境対策課	久木田	環境モデル都市推進課	草野・池崎	
	出席者 計				9 名
欠 席 者	推進委員	田中	推進委員	山下	
	農林水産課	本田	企画課	栄永	
	推進委員	久木田	水俣病資料館	下川	
	欠席者 計				6 名
内 容	1. 前回の確認、各部会の進捗状況、環境モデル都市推進課の事業報告等 事務局： ①前回の確認：会議録を参照。 ②各部会の進捗状況について ゼロ・ウェイスト円卓会議では、環境モデル都市フェスタに向けて、ゼロ・ウェイスト宣言の中身づくりを中心とした議論がされている。食と農と暮らし円卓会議では、主に特産品づくり（水俣ご当地ソフト）の検討や、菜の花プロジェクトの話がされている。自転車・公共交通円卓会議では、自転車市民共同利用システムの運用 開始を直前に控え、その話がされているようだ。12月に共同利用システムの設置、1月にレンタル開始を予定している。ISOのまちづくり円卓会議では、家庭版ISOの取組について話がされている。以前行われていた家庭版ISO「我が家のISO」は、現在80世帯が登録されているが、アクションプランでは毎年新規加入の目標を700戸としている。わかりやすく、簡単なものをつくらうとしているようだ。 ③環境モデル都市の事業報告 市民講座では、8月にJAF、水俣自動車学校の協力により、エコドライブ講習会を実施した。15名程度の参加があり、座学の勉強だけでなく、実際に自動車に乗車してエコドライブを体験してもらった。10月には、新聞エコバッグづくりを行った。熊日東販売店の釜さんが、古新聞を新聞バッグに入れて出せないかということで、四万十に勉強に行かれて始められた。現在では、県内の熊日販売店すべてで、新聞バッグで古新聞の回収をする取組を行っている。 環境モデル都市関係課の事業としては、①エコハウスモデル事業が11月に最終的な設計プレゼンテーションを終えた。100年間使え、使い終えた後もリサイクルできるような家が考えられているようだ。環境対策課では、②廃食油回収のモデル事業が開始された。モデル地区は、1, 7, 8, 23～25区で、回収量から水俣全体で年間10tくらい回収できるのではないかと予測がなされている。それをどうやって回していくのか検討が必要だ。また、③レアメタル回収のモデル事業も12月から開始される。 メンバー：廃食油のリサイクル先はどのようになっているのか？ 事務局：リターンネットと田中商店に委託され、使用済みの油はBDFに、賞味期限切れの油は石鹼になる予定である。今回の目的は、量の把握であり、廃食油の成分も含めて検討したいと考えている。廃食油の成分検討は、県立大にお願いしている。 メンバー：廃食油の回収ポスターにも、そのような回収後の流れが見えるように情報を提示してはどうか。				

内 容	2. 作業部会の報告 事務局) 9月30日(月)、10月9日(金)、16日(金)に作業部会を行った。詳細は資料を参考にしてもらいたい。その結果、環境学習の対象を次の4つに分類してはどうか、という提案があった。①子ども(小学校低学年、中学年、高学年+中学生)、②一般市民、③一般市民より少し知識のある人、④リサイクル推進委員の4つ。子ども、リサイクル推進委員への環境学習の方法を仕組み化した後、市民向けのものを考えていきたい。 子ども、リサイクル推進委員への環境学習の具体的な内容は、次のとおりである。 ①子ども向け：副読本をより使いやすいものにしていく。主に学校側へゲストティチャーの派遣パンフレットや、発達段階に応じたプログラムを提案し、先生に選んで活用してもらう。ゲストティチャーパンフについては、平成9年に人材マップが作成されているがわかりにくいので、管理化したパンフレットが作成できないかと考えている。学校向けの環境学習の展開には、教育委員会の協力が必要。環境学習の相談窓口としてNPOがあるとよいという意見もあった。 ④リサイクル推進委員向け：リサイクル推進委員には、現在、年1回クリーンセンターで研修が行われている。その際に、“なぜ？”(分けるのか、リサイクルの工程等)の部分を解消できるようなプログラムに取り組んでいく。また、推進委員の相談窓口としてのNPOも必要なのではないかという意見もあった。 メンバー：うちの地区では、2年に1回リサイクル推進委員が変わってしまう。プロを養成する講座を別に設けたほうがいい気がする。 メンバー：リサイクル推進委員は地域のリーダー的な位置づけになっているが、本当にそうなのだろうか。プロを養成する場があってもいいのかもしれない。 事務局：リサイクル推進委員は、市内に300あるごみステーションから各一人出してもらっている。仕事としては、ごみステーションの準備、指導、片付けの3つをお願いしている。研修会を年1回から3～4回に増やすということも考えられる。 メンバー：現場で疑問に思ったことを提案して改善できるような場を設けた方がよいのでは。 メンバー：リサイクル推進委員に自らなった人は少ない。また、自分の地域の分別では、指導しにくいという心情もある。そこをカバーできるような仕組み(権威づけ)や、継続性を持って取り組めるよう、視察旅行など、モチベーションになるものがあるとよい。 事務局：現場で求められているのは、分別がわからないときに教えてもらえることである。 メンバー：リサイクルのプロがいるのか、いるとしたら報酬を出すべきか、出すとしたら年間どの程度か、といった具体的なことを考えていかなければ。ゼロウェイストの普及啓発も行っていかなければならない。ISOの市民監査委員は、ある程度知識を持った人がやっていて、しかもそれが継続している。その仕組みはどうなっているのか。 環対：市民監査委員には、年に1回、市のISOの仕組みがちゃんと機能しているかの審査を行っている。 メンバー：地区ごとの常会がある際に、啓発の時間をもらってはどうか。 メンバー：ごみを減らすことを考えるのであれば、ある程度「ごみを減らしていくんだ」という意識づくりを行い、それを現行の活動の中に取り込んでいかなければ。ごみを減らした地区に環現金を出すなど、減ったことを喜べる意識をつくらないと。 事務局：エコ検定のようなものを実施して、そこからプロの養成やリーダーの育成につなげられないかといったことも考えている。 メンバー：中学生等にエコ検定を受けてもらい、指導に行ってもらうのはどうか。子どもの意見だと、大人も素直に受け入れやすいかもしれない。 事務局：ステーションの収集の時間がバラバラなので難しいかも。 メンバー：高学年向けには、ゼロウェイスト養成講座を組み込んだらどうか。 メンバー：市民が「ごみをゼロにしていくなだ！」という意識づくりは、どのようにやっていけばよいか。上勝はどのようにしているのか。
-----	---

内 容	事務局：上勝町長がＣＯ２削減のためのゼロウェイストを打ち出しており、ゼロ・ウェイストアカデミーというＮＰＯがゼロウェイストに取り組んでいる。まだ周知までは徹底していないようだ。 メンバー：事業所への取組はどうなっているのか。 事務局：事業所の産業廃棄物は市のごみ回収には出せない。小規模事業所で、家庭ごみと同程度のものを出しているところはあるが、量的には少ない。ただし、事業所職員の意識の向上は大切だと考えている。 メンバー：ごみゼロ目指して、自分の家での取り組みを見直すところから始めなければ。ただし、生活自体を変えるのは難しい。生産システムも併せて考えていかなければならない。 メンバー：ごみを減らすことへのモチベーションはどこにあるのか。「何を大切にしたいのか」という意識が足元になれば。水俣で取り組む意味は、水俣病事件が起こって、水・ごみ・食べ物に気をつけよう、という意識が生まれた。そこにあるのでは。 メンバー：今、自分たちにできることとして、ごみを減らす方法を周知し、減量分を積み上げていった方がよいのではないか。ゼロ・ウェイストというと、ものの生産体制から変えていかなければならない。 事務局：まず、「埋め立てをゼロ」にして、その次に「燃やさない」という段階があると思う。今の焼却炉の耐用年数はあと１０年くらい。熔融がいいのか、ＲＤＦがいいのか、ＲＰＦがいいのかという議論や、今後の方針等も考えなければ。 メンバー：少しでもごみを減らすところから始めよう。環境教育は、一方的に情報を与えるのではなく、向こうが思っているものも引き出して、方向を見出していきたい。 メンバー：最終的な目標は、問題を自分で発見し、それに取り組んでいけるようにすること。毎回その問題に対して取り組まなければならない、というのは望ましくない。 環境学習では、気づきを促すような導入部分が大切。例えば、グリーンスポーツの海岸でごみ拾いをする→「ゼロ・ウェイスト」とは何かを問いかける→ゼロ・ウェイスト実現のための方法を考えるなど。自分の行動と、その行動の持つ意味が合致できるような情報を提供しなければ。 事務局：ゼロ・ウェイストを市民に普及していくに当たっては、何を大切にしていけるのか、まず取り組めることは何か、リサイクル推進委員とは別に、ゼロウェイスト推進委員のような役割の設置といったことを考えていく。 学校への環境学習については、ゲストティーチャーパンフレットの要望調査、プログラムの作成、モデル校の選定（３校程度）といったことを考えていく。 ３．来年度予算要望について 来年度の予算としては、ごみの出し方・分け方等のパンフレット作成費、視察研修費、ゲストティーチャーの派遣パンフレット作成費、紙芝居の作成費、移動費、調査費等をあげる。 ４．環境モデル都市フェスタについて 事務局：フェスタの際に、各円卓会議の取組内容等がわかるパネルを作成して掲示したいと考えている。パネルの作成は事務局に一任してもらってよいのか。 一同了承。 事務局：フェスタにもぜひ足を運んでもらいたい。また、エコスマイルプロジェクトのパネルも作成する予定である。円卓会議のメンバーにも協力をお願いしたい。
次回の日程	平成22年１月12日（火）午後７時から 場所は追って連絡する。